

「神様に従う道」

～あなたを操る片利共生者～

ヤコブ 3:13～4:8

■ 片利共生者

最初にひとつの映像を見ました。川へと向かって行くカマキリの映像です。

本来、水が苦手なカマキリは、自らの意志で川に向かうことはありません。しかしその映像ではまるで自分の意志に反して、何かに操られたように川に向かって行きました。

カマキリは多くの割合でハリガネムシに寄生されています。寄生虫には2種類あり、宿主に利益をもたらすものと、もたらさないものがあるそうです。このハリガネムシは後者の利益をもたらさない寄生虫であり、宿主を完全にコントロールしてしまうそうです。これを片利共生者と言います。

このカマキリも、ハリガネムシに操られ、段々と川に近づき、ついに水の中に入ってしまった。そしてカマキリの中からハリガネムシが抜け出していきました。

自分ではわかってはいても段々とずれていってしまう、そんな私たちの愚かさを見ているかのようです。

多くの場合、私たちは自分をえこひいきしています。ハリガネムシのように私たちに何の利益ももたらさない片利共生者の声を聞いてしまい、本来の自分を見失って、自分を間違った目で見てしまいます。そのえこひいきが私たちに間違った方向へ導いてしまうのです。

■ ヤコブ 3:13～4:8 から

ではどうすればいいのでしょうか。ヤコブ書にそのことが書かれています。

私たちは知恵によって、自らをコントロールすることができます。だから感情的になることなく、間違った判断をしないで柔和とすることができます。

ハリガネムシのように私たちに害をもたらすものは、目に見える物だけではありません。私たちの心を落ち着かせるような偽りの言葉によって、私たちは極端な落胆と怒りを植え付けられ、欲望という間違った視線を持ってしまいます。

欲というものは神様が与えてくださった素晴らしいものです。だから神様との関係のなかでその欲を用いると、すべてを愛の動機によって行動することができます。しかしそれが第三者を介して欲望として用いられたら、「あの人のように…」という比較によって満ちそうとしてしまいます。そこに帰属意識が生まれてしまい、そこから敵対する関係になってしまうのです。私たちがどこに帰属するべきなのかももう一度考えてみましょう。

「しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。(3:17)」

純真とは私たちの心を真っ白にすることです。その真っ白な心のキャンパスに自分ではなく神様が描く絵を求めていきましょう。決して誰かと比較して描くものではありません。もし純真になることができれば、相手を寛容に赦し、平和をもたらすことができます。

「あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。(4:2)」

罪とはなんでしょうか。確かに人殺しは大罪ですが、それは罪の結果です。目に見える罪を犯す前にその罪を誘発させる、恐れ、不安、比較…。それが罪であると聖書は言っています。

■ 彼方の中にいるヨナ

ある時ヨナに「立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。」と神様が語られました。しかしヨナは神様から逃れようとタルシュシュに向かう船に乗ります。

その後ヨナを乗せた船は大嵐に遭いました。そんな時船員たちが大騒ぎしているにも関わらず、ヨナはなんと船底で寝ていました。

私たちの中にもヨナはいないでしょうか。神様がこうしろと言っているのに、それに従わず、神様の声ではなくハリガネムシの声を聞こうとします。そして罪に向かっていき、たとえ周りで何が起ころうと寝ているのです。

『それとも、「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる」という聖書のことばが、無意味だと思いませんか。(ヤコブ 4:5)』

神様はアダムとイブを創造し、息を吹きかけ霊を注がれました。そして神の霊と人の霊が更新できるようにされました。だからいつも神様に聞いて正しい道を選ぶことができます。しかしそれでも私たちは悪しき者の声を聞いてしまいます。悪魔は私たちの弱点を知っています。だから神様を選ばないようにその弱点を攻撃してくるのです。だから私たちは悪魔の声に立ち向かわなければなりません。

『しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」』

ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。』(ヤコブ 4:6、7)

創世記の時代、人は偽りの言葉を欲しがらうになりました。しかし神様はもう一度聖霊と語り合う方法を与えました。それがイエスキリストです。十字架にまで従ったイエスを通しへりくだることを学んだ私たちが、イエスに聞き従ったときに、悪魔に立ち向かうことができると語られています。

■ もう一度やり直させる神

ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた後、神様によって陸地に吐き出されました。そしてもう一度神はヨナに語り掛け、ニネベに行くように告げました。

神様はヨナを魚から吐き出させたとき、決してニネベには吐き出させませんでした。ヨナが失敗したところに戻し、そこからもう一度スタートさせたのです。そしてヨナは「主のことばとおりに、立ってニネベに行った。」と書かれています。神様が造り変えたかったのはニネベではなくヨナの心だったのです。

4章という短いヨナ書ですが、魚という言葉が4回、ヨナが18回出てきますが、神という言葉は38回出てきます。人々はヨナ書がヨナの物語だと思っていますが、これは神の物語なのです。

神様はハリガネムシに食いつぶされて神様から背いたヨナを奇跡的にリニューアルして復活させました。そしてもう一度「立ってニネベに行け」と語られました。つまりあなたの方法ではなく、私の方法で行きなさいと神様は語ったのです。このあとヨナの言葉を聞いたニネベの人達は神を信じ、悔い改めました。三日三晩魚の中において、吐き出されたヨナの姿は、十字架に架かり、黄泉にくだって三日目に復活されたイエスキリストを伝えています。ヨナ書は神の物語であり、いのちがけのストーリーです。

さいごに

私たちは誘惑に遭います。今、誘発する罪を神様の前に降ろしましょう。誘発する罪とは従わないという行動です。神様がこうしなさいと言っているのにそれに従わないのです。

従わないことは偶像礼拝の罪であると聖書には書かれています。「わたしのほかに神があってはならない。」十戒の一つ目に語られた神様からの戒めです。今日、神様に従うものとなっていきましょう。

私たちが罪に陥り、いのちを失いそうになっていたとしても、神様は必ずそこから救い出してください。そしてヨナを救い出し、もう一度スタートさせたように、私たちにももう一度やり直すことができる恵みを与えて下さいます。

寄生虫に操られ死んでいくカマキリのような人生ではなく、神様だけに信頼し、神様に従う道を歩んで行きましょう。

(要約者:永井匡史)

(2021年1月24日)